

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
福祉サービスの組織と経営 Organization and Administration of Welfare Service		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	((社会福祉士国家試験受験資格取得必修・社会福祉主事任用資格に係る科目))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
高齢者に対する支援と介護保険制度、社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高松 利典	非常勤講師室	授業内で指示します。		授業中に指示します
授業の概要				
社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人（NPO）、市民団体など福祉サービス供給に係る組織や機能を理化学し、運営管理などのマネジメントについて理解する。				
授業の目標				
①サービス供給組織と運営管理について説明できるようにする。 ②社会福祉施設（入所・通所）の運営管理を説明できるようにする。 ③福祉施設の現場を具体的事例に基づき理解し、施設運営管理をすることができるようにする。				
授業の方法				
講義、事例教材等を用いて、組織と運営管理や経営のあり方、社会福祉法人会計基準に基づき会計の仕組みを理解する。施設職員のスキルアップの研修企画等を実践する。				
学習の成果（学習成果）				
①社会福祉施設の運営（組織・財務・経理等）を具体的に理解することができる。 ②管理部門と処遇現場の関係を理解することができる。 ③職員処遇のシステム（人事・給与・研修）を理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 福祉サービスにおける組織と経営			
第2回目	福祉サービス制度と経営			
第3回目	福祉サービスの供給組織や団体（社会福祉法人制度）			
第4回目	特定非営利活動法人、その他の組織・団体			
第5回目	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（Ⅰ）			
第6回目	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（Ⅱ）			

第7回目	福祉サービスの管理運営の方法（Ⅰ） ～サービス管理～	
第8回目	福祉サービスの管理運営の方法（Ⅱ） ～苦情対応～	
第9回目	福祉サービスの管理運営の方法（Ⅲ） ～人事管理・労務管理～	
第10回目	福祉サービスの管理運営の方法（Ⅳ） ～人材育成・研修～	
第11回目	福祉サービスの管理運営の方法（Ⅴ） ～会計管理・愛無管理～	
第12回目	福祉サービスの管理運営の方法（Ⅵ） ～情報管理～	
第13回目	社会福祉サービス供給組織（施設関係）の今後の対応	
第14回目	社会福祉サービス供給組織（居宅・地域関連）の今後の対応 レポート「福祉サービスの現状と課題について」提出は第15回の授業時	
第15回目	利用者サイドの管理運営及び地域福祉の推進、授業のまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加（遅刻・私語・居眠り等は厳禁）を評価する。ノートをきちんととり、不明な点があれば積極的に質問する等。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	試験を行い評価する。課題を十分に理会して解答しているかにより評価する。解答は根拠（エビデンス）に基づき自分の言葉で述べられている。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「福祉サービスの組織と経営」（中央法規） 授業担当より適宜資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。高齢者・障害者福祉関連科目を十分に学習することが本授業の理解につながる。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		